

と雖も作戦開始せらるゝや其の戦闘能力才一線兵団の比にあらず旅  
團長以下各指揮官の統帥指揮に苦心を払ひしこと筆舌に尽し難きも  
のあり然れども作戦終了と共に緬甸方面軍司令官より当兵団に感状  
(附録才六)を附与せられたる光榮を担ひしことは一に兵団各將兵  
の一致団結と尽忠報國の精神の発露に他ならず寧ろ奇蹟とも謂ふへ  
く戦史上特筆すへき価値あるものと信す。

## 才二 独立混成才百<sup>五</sup>旅団蘭貢防衛作戦計畫

二 本計畫は蘭貢地区の防衛に責任を有する才二十八軍の「蘭貢防衛  
作戦計畫要綱」竝に在蘭貢諸部隊及日本人居留民の処理に關し規定  
せる緬甸方面軍の「蘭貢防衛の為臨時編成部隊に關する規定」に基  
き立案せるものにして昭和二十年二月下旬には之か実行に關し命令  
の傳達を完了せり而して本計畫は既に昭和十九年末より蘭貢防衛の  
為部隊編成竝に築城に關し逐次其の態勢を整備強化せられつゝあり  
しものを改善確立せるものにして爾後本計畫に基き在蘭貢諸部隊は

三 一途に蘭貢防衛作戰準備に邁進することゝなれり  
蘭貢防衛作戰計畫の概要附録才一の如し

才三 状況の推移に伴ふ蘭貢防衛作戰計畫の変更  
竝に其の後の作戰計畫及上層級司令部發命  
令に対する關係

四 三月二十七日以來緬甸國軍叛亂し旅団は緬甸方面軍直轄となり遂  
次編成せられし臨時編成部隊を併せ指揮して之を討伐中「メイクテ  
イラ」會戦末期より敵の優勢なる機甲部隊の我が才一線兵団を突破  
し南下するの願慮大なると共に之に呼応して蘭貢附近特に其の北方  
飛行場地帯に対し敵空挺部隊降下の虞増大せるに反し南方よりする敵  
上陸の願慮稀薄となりしを以て四月中旬より緬甸叛亂軍の討伐を遂  
次中止し蘭貢北方に対する防備を強化し遂に主力を以て蘭貢北方よ  
りする対機甲竝に對空挺部隊の作戰を計畫準備することゝなれり  
三